

鐘紡資料叢書 株主總會編<第4巻概要>

武藤絲治は武藤山治の次男として兵庫県に生まれた。慶應義塾普通部を中退後、イギリスに留学した。帰国後、鐘紡の関連会社であった昭和産業に入社した。昭和8年、昭和産業が鐘紡に吸収され、鐘紡の神戸営業所で勤務した後、下京工場、さらに大阪工場で工場長を務めた。本叢書にもある昭和22年、公職追放により津田信吾、倉知四郎という2名の経営陣が相次いで追放されたことを受けて社長に就任した。前任社長の津田信吾の業種拡大戦略は失敗に終わり、さらに国内事業所は爆撃によりほぼ壊滅し、海外事業所は全て失うなど、鐘紡の戦争による特別損失は当時の国家予算の5%にも及んだ。

武藤絲治はその惨憺たる状況を引継いで社長に就任した。昭和22年当時の鐘紡は、第二次世界大戦の敗戦や空襲によって海外資産や国内外の工場などを失い、戦地からの多数の引き上げ社員を抱えていた。さらに、同年には戦後の財閥解体の一環とし、大企業の経済力の集中を排除し分散させるために、過度経済力集中排除法が制定された。鐘紡においても、昭和24年、過度経済力集中排除法の適用を受け、非繊維事業を鐘淵化学工業として分離独立させ鐘淵化学工業（後のカネカ）に集約した。このような苦勞の結果、昭和25年、朝鮮戦争による特需により紡績業は力を取り戻し、5年程で戦前に近い状況に回復した。しかし、特需の反動により不況を経験することとなったが、工場閉鎖や賃金カットにより乗り切り、紡績業ではトップの黒字化を果たした。その後、「原料から最終製品までの一貫生産体制」、「販売網の拡充強化」、「非繊維部門の化粧品、食品への進出」の三本柱による構造改革を目指す「グレーター鐘紡計画」を策定することになった。

さらに労働組合とは、鐘紡の存立の発展と源泉は従業員であるという哲学を示す「労使の平和共同宣言」を行っている。労使の平和共同宣言は、武藤山治の人間尊重の経営哲学そのものであり、これを継承し、レーヨン事業、化粧品、食料品などの多角経営に先鞭をつけ、鐘紡の多角化の道筋をつけたのは武藤絲治の功績である。こうした苦労を経験したこともあり、武藤絲治はその後、関西財界の重鎮となる。

本書では、昭和 18 年より昭和 28 年までの鐘紡の株主総会の内容を、武藤絲治社長を中心に正確に伝える。

ISSN 1345-8620
ISSN 2185-503X



Research Institute for
Economics and Business Administration
Kobe University

研究叢書 81

鐘紡資料叢書

株主總會編

第4卷

神戸大学経済経営研究所

伊藤 宗彦・國本 光正・加島 美和 編

第4卷 目次

鐘淵工業株式会社第五回定時株主総会議事速記録

∴
1

鐘淵紡績株式会社第六回定時株主総会議事速記録

∴
27

鐘淵紡績株式会社臨時株主総会議事速記録

昭和二十三年十二月十日

∴
49

昭和二十三年十二月十日

臨時株主総会に於ける武藤社長挨拶

∴
69

鐘淵紡績株式会社臨時株主総会議事速記録

昭和二十四年三月二十六日

∴
79

鐘淵紡績株式会社臨時株主總會議事速記録

⋮
89

鐘淵紡績株式会社臨時株主總會議事速記録

⋮
109

昭和二十四年十月三十一日

鐘淵紡績株式会社臨時株主總會議事速記録

⋮
121

昭和二十四年十二月二十四日

鐘淵紡績株式会社第七回定時株主總會議事速記録

⋮
127

昭和二十四年十二月二十四日

鐘淵紡績株式会社臨時株主總會議事速記録

⋮
141

昭和二十五年四月十八日

鐘淵紡績株式会社第八回定時株主總會議事速記録

⋮
149

昭和二十五年五月三十日

鐘淵紡績株式会社臨時株主總會議事速記録

昭和二十五年八月二十九日

鐘淵紡績株式会社第九回定時株主總會議事速記録

昭和二十五年十一月二十九日

鐘淵紡績株式会社第十回定時株主總會議事速記録

昭和二十六年五月二十五日

昭和二十六年十一月二十九日

鐘淵紡績株式会社臨時株主總會議事速記録

昭和二十六年十一月二十九日

鐘淵紡績株式会社第十一回定時株主總會議事速記録

昭和二十六年十一月二十九日

第十一回定時株主總會社長挨拶

⋮
225

⋮
211

⋮
203

⋮
189

⋮
177

⋮
159

鐘淵紡績株式会社第十二回定時株主総会議事速記録
昭和二十七年六月二十四日

鐘淵紡績株式会社第十三回定時株主総会議録
昭和二十七年十二月二十四日

鐘淵紡績株式会社第十四回定時株主総会議録
昭和二十八年六月二十四日

昭和二十八年六月二十四日
第十四回定時株主総会挨拶

∴
283

∴
269

∴
253

∴
233